特定農林水産物等登録簿

登録番号	第 113 号	登録年月日	令和 4 年 2 月 3 日 (2022 年 2 月 3 日)
申請番号	第 215 号	申請年月日	令和 元年 6 月 6 日 (2019 年 6 月 6 日)
特定農林水産物等の区分	第一類 農産物類 野菜類 (ねぎ)		
特定農林水産物等の名称	阿久津曲がりねぎ (アクツマガリネギ)、Akutsu Magarinegi		
特定農林水産物等の生産地	福島県郡山市		
特定農林水産物等の特性	<p>「阿久津曲がりねぎ」は、軟白部が甘く、柔らかく、旨味が強い郡山市を代表する伝統野菜である。市販品からランダム抽出した他県産のねぎと比較して、旨味系アミノ酸（グルタミン酸、アスパラギン酸）が約 1.8 倍、糖度も約 1.7 倍多く含まれている。</p> <p>この特性は、生産地において明治時代から代々自家採種されてきた在来種の「阿久津ねぎ」の種子を使用し、夏場に斜めに植え替える「やとい」という作業によりもたらされている。</p> <p>伝統野菜として郡山市民に古くから親しまれてきた点が評価され、平成 20 年に「郡山ブランド認証産品」の認証を受けている。また、毎年、全国のねぎ産地が集って PR 販売を行う「全国ネギサミット」では、柔らかくて甘く、とてもおいしいと消費者から好評を得ている。生産量が少ないため首都圏等の中央卸売市場にはほとんど出荷していないが、地元郡山地方総合卸売市場では、他の郡山産ねぎに比べて 3 割ほど高値で取引されている。</p>		
特定農林水産物等の生産の方法	<p>「阿久津曲がりねぎ」の生産の方法は、以下のとおりである。</p> <p>(1) 種子</p> <p>阿久津曲がりねぎ保存会の生産者が自家採種した在来種「阿久津ねぎ」の種子を使用する。なお、災害等により種子の確保が困難な場合には、郡山市の協力を得ながら、郡山市園芸振興センターで保存している種子の提供を受けることとする。</p> <p>(2) 栽培方法</p> <p>ア 生産地内の圃場において栽培する。</p> <p>イ 4 月～5 月に定植したねぎを、8 月～9 月に一度抜き取り、約 45 度の角度をつけて寝かせ、その上から土をかけ植え替える「やとい」の作業を行うが、生育状況によって作業時期は前後する場合がある。</p> <p>(3) 出荷規格</p> <p>ア 軟白部が弓状に曲がっているもの。</p> <p>イ 褐色に変色したものや葉枯れしたものは除く。</p> <p>(4) 最終製品としての形態</p>		

	<p>「阿久津曲がりねぎ」の最終製品としての形態は、青果（ねぎ）である。</p>
<p>特定農林水産物等の特性がその生産地に主として帰せられるものであることの理由</p>	<p>「阿久津曲がりねぎ」の発祥地である阿久津地区の耕作地は、粘土質の土壌が多く、ねぎの軟白部分を確保するのに必要な作土が少なかったことから、ねぎの軟白部分を確保するために、夏場にねぎを一度引き抜き、斜めの床を作り植え替える「やとい」という作業を行って見たところ、甘みが増し、柔らかい特性を持つ曲がりねぎが生まれた。</p> <p>また、阿久津地区のある郡山市では、昭和中期頃まで紡績業とそれに伴う養蚕業が盛んであり、栽培条件の良い耕作地は蚕の餌を生産するための桑畑として利用され、野菜類は阿久津地区と同様に、作土の少ない栽培条件が良好ではない耕作地で栽培されていたことから、郡山市の他の地域にも「やとい」が広がり、生産技術として確立された。</p> <p>「阿久津曲がりねぎ」の種子は、明治30年(1897年)頃、富山の薬売りによりもたらされた「加賀ネギ群」の種子の中から、阿久津地区の気候・風土に適した種子を選抜して代々自家採種してきた在来種「阿久津ねぎ」である。「阿久津ねぎ」は加賀群の太ねぎで、厳寒期に向かい柔らかくなるとともに糖度が高まる品種であり、「やとい」による植え替えを行うことにより、さらに柔らかさと糖度が増し食味が向上するとされている。このように「阿久津曲がりねぎ」の特性は、在来種である「阿久津ねぎ」の種子の使用と、作業工程の「やとい」によってもたらされている。</p> <p>なお、「阿久津曲がりねぎ」の種子は、生産者が各自で自家採種してきたため生産者毎の形質及び品質に若干のばらつきがあったところ、「阿久津曲がりねぎ保存会」（平成17年発足）は、もっとも昔ながらの形質を持つ種子を農研機構の農業生物資源ジーンバンクに登録のうえ生産者と共有し、併せて生産方法を継承する取組を行うことにより、安定した品質の産品生産への取組を推進してきた。</p>
<p>特定農林水産物等がその生産地において生産されてきた実績</p>	<p>「阿久津曲がりねぎ」の種子は、明治30年頃、阿久津地区に在住の農家、武田鹿太郎氏が富山の薬売りによってもたらされた「加賀ネギ群」の種子を蒔いて栽培を始めたのが起源と伝えられており、「やとい」の技術もこの頃考案された。</p> <p>昭和初期には阿久津地区全体に「やとい」による「阿久津ねぎ」の栽培が広がり、その後郡山市内全体で栽培されるようになった。「郡山市の農林業」（平成2年3月、郡山市発行）では「阿久津の曲がりねぎ」として紹介されている。</p> <p>また、平成17年には「阿久津曲がりねぎ保存会」が設立され、種子の保存や品質の統一に取組み、現在まで生産が継続している。平成30年現在の生産者数は14名、栽培面積は約3haで、年</p>

	間の出荷数量は約 45t である。
規則第 5 条第 2 項各号に掲げる事項	<p>法第 13 条第 1 項第 4 号ロの該当の有無：該当しない</p> <p>商標権者の氏名又は名称：－</p> <p>登録商標：－</p> <p>指定商品又は指定役務：－</p> <p>商標登録の登録番号：－</p> <p>商標権の設定の登録及び存続期間の満了の年月日（当該商標権の存続期間の更新登録があったときは、当該商標権の存続期間の更新登録及びその存続期間の満了の年月日についても記載する。）</p> <p>：－</p> <p>専用使用権者の氏名又は名称：－</p> <p>商標権者等の承諾の年月日：－</p>
登録生産者団体の名称及び住所並びに代表者の氏名	<p>阿久津曲がりねぎ保存会</p> <p>福島県郡山市阿久津町字館側 50</p> <p>会長 橋本 昌幸</p>
備考	<p>（注）登録事項の変更があった場合には、変更年月日及び変更に係る事項の概要を記載する。</p>